

デジタル情報資源の長期保存のための総合的アーカイブ環境

1. 研究組織

研究代表者	杉本重雄	筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授
研究分担者	川原崎雅敏	筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授
	西岡貞一	筑波大学・図書館情報メディア研究科・教授
	宇陀則彦	筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授
	阪口哲男	筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授
	新保史生	筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授
	森嶋厚行	筑波大学・図書館情報メディア研究科・准教授
	永森光晴	筑波大学・図書館情報メディア研究科・講師

2. 研究目的

インターネットと電子出版技術の発展によって、情報の発信から流通、蓄積、保存にいたる過程が大きく変化し、その間電子政府や電子自治体の取り組み、機関リポジトリの取り組みなど公的機関や学術組織でのデジタル情報資源の流通と蓄積が進んだ。また、パッケージ系、ネットワーク系ともにさまざまなデジタルメディアを用いた出版も進歩した。その一方、デジタル情報資源を長期にわたって保存するための環境整備は遅れており、現在デジタル情報資源がどんどん失われている状況である。

デジタル情報資源は多様であるため、保存のための技術、制度も資源の種類に応じて多様な視点から検討する必要がある。国内外の状況に示すように、これまでデジタル情報資源の保存に関して、欧米では国立図書館を中心とした取り組みがあるが、我が国においては本研究ではこれまで十分な取り組みが行われていない。そこで、本研究では、従来の国内外における取り組みに関する調査を行い、我が国におけるデジタル情報資源の保存に関する取り組みについての課題の整理とそれを解決するために必要な研究開発の取り組みについてまとめることを目的とする。

3. 研究成果の概要

本研究は、デジタルアーカイブの長期利用とデジタル情報資源の長期保存の現状に関する調査を中心に行った。そのため、2007年2月に、国立国会図書館、国立公文書館、日本科学技術振興機構（JST）、および本研究のメンバーによる講演とパネル討論からなるシンポジウムの開催と、アメリカのミシガン大学、ピッツバーグ大学、OCLC 研究部の訪問調査を行った。

シンポジウムでは各組織における取り組みと現状の認識について議論し、組織間での情報共有と協調的な取り組みの必要性、保存や長期利用のためのガイドライン作成の必要性について共通の意見を得た。（シンポジウムの構成については次節に示す。）アメリカでの調査では、現状、中心的な課題等について、各組織における当該分野の研究者に聞き取り調査を行った。

この取り組みをベースにして申請した科学研究費補助金（基盤研究（B）、研究題目：デジタル資料の長期保存とデジタルアーカイブの長期利用性に関する総合的研究、平成19～21年度、研究代表者：杉本重雄）が認められたので、平成19年度以降、デジタルアーカイブの長期利用に関する研究を継続して行う予定である。

4. デジタルアーカイブシンポジウム

(1) シンポジウムの構成

題目： デジタルアーカイブシンポジウムーデジタルアーカイブとその長期利用に関する研究会ー

日時： 2007 年 2 月 16 日

場所： 筑波大学春日キャンパス情報メディアユニオン

プログラム：

午前の部

- ・ 杉本重雄（筑波大学・図書館情報メディア研究科／知的コミュニティ基盤研究センター）
背景と目的、デジタルアーカイブとその長期利用に関する問題の提供
- ・ 藤原誠（国立国会図書館・関西館）
国立国会図書館におけるデジタル資料の長期保存に関して
- ・ 牟田昌平，中島康比古（国立公文書館）
公文書の電子的保存に関して - 内閣府の取り組み、国立公文書館の取り組み -

午後の部（前半）

- ・ 和田光俊（独立行政法人科学技術振興機構・文献情報部）
学術雑誌のデジタルアーカイブと長期利用に関して
- ・ 西岡貞一（筑波大学・図書館情報メディア研究科）
文化財のデジタルアーカイブと長期保存に関する問題
- ・ 新保史生（筑波大学・図書館情報メディア研究科）
デジタルアーカイブと法

午後の部（後半）

- ・ ディスカッション（パネル討論、司会：杉本重雄）
 - 中井万知子（国立国会図書館書誌調整課）
 - 大場利康（国立国会図書館電子図書館課）
 - 中島康比古（国立公文書館）
 - 田窪直樹（近畿大学短期大学部）

(2) シンポジウムの参加者、資料など

シンポジウムには主として学外からの参加者約 80 名であった。シンポジウムの資料はシンポジウム当日の配布資料等を、シンポジウム終了後まとめて冊子にした。なお、電子版を知的コミュニティ基盤研究センターのホームページ（<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/>）に置く。

(3) シンポジウムでの議論および参加者のフィードバック等からのまとめ

デジタル情報資源の長期利用には、技術的な問題だけではなく社会制度的な問題も含めさまざまな未解決の問題があることが改めて確認できた。国立の機関のように保存に関する意識の高いところもあるが、全般的にはいつのまにかデジタル情報資源が使えなくなっている危険がある。今後、啓発活動も含め、技術的、方法論的に研究開発を進めることが必要である。